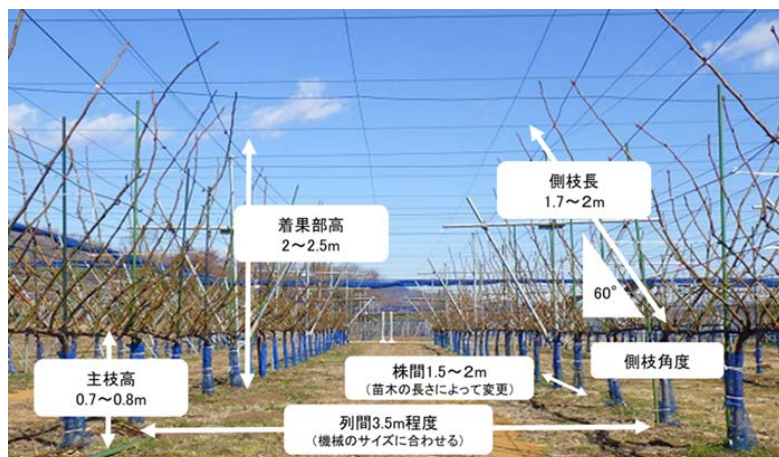


ナシのジョイントV字樹形の導入による早期成園化技術

ジョイントV字樹形とは

- 主枝高を従来よりも下げた新しいジョイント樹形です。従来 180cm 程度の主枝高を 70~80cm の高さとし、そこから側枝を斜立させて、仰角 60° の架線に誘引することでV字の樹冠を構成する樹形です。



早期成園化技術の実証

- 定植2年目から収穫（目標 1 t /10a）を目標に研究に取り組み、「甘太」2年生苗定植区では、10a 換算収量で 1.1 t を達成し、早期成園化を実証しました。



「甘太」1年生苗区の着果状況

ジョイントV字樹形定植2年目の収量(南相馬市鹿島)

品種	定植苗 年生	1樹当たり 収量(kg)	10a当たり 換算収量(kg)	樹間距離 (m)	10a当たり 植栽本数
甘太	1年生苗	2.54	904	0.8	356
	2年生苗	5.64	1,167	1.3	207
王秋	1年生苗	2.65	628	1.2	237
	2年生苗	5.50	863	1.8	157

ジョイントV字樹形の有利性

- 改植3年目より所得が得られ、10年目の累積キャッシュフローでも65万円ほど高くなるので、早期成園化と収益改善が期待できます。

樹形別にみた改植後のナシ「幸水」10a当たりの経営指標の予測値

樹形	主要指標	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	10年目
JV 樹形	所得(円) (粗収益-経営費)	-41,667	-90,442	128,667	279,150	477,917	615,167
	N年目累積 キャッシュフロー	-841,667	-932,108	-803,441	-524,291	-46,374	3,029,461
慣行 樹形	所得(円) (粗収益-経営費)	-41,667	-41,667	-14,217	74,750	170,334	615,167
	N年目累積 キャッシュフロー	-141,667	-183,333	-197,550	-122,800	47,534	2,369,969

果樹早期復旧コンソーシアム

福島県農業総合センター果樹研究所・栃木県農業試験場・神奈川県農業技術センター

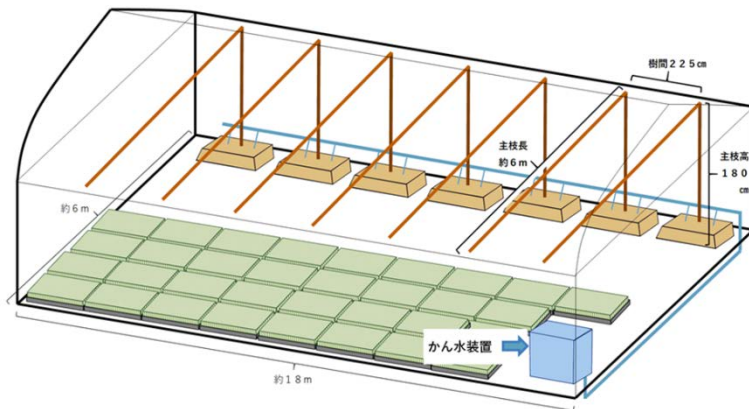
国立大学法人 福島大学・一般社団法人 食品需給研究センター

栽培中断園地における果樹の早期復旧に向けた実証研究

水稲育苗ハウスと盛土式根圏制御栽培法を利用した ブドウの早期成園化技術

水稲育苗ハウスを利用したブドウの盛土式根圏制御栽培

●苗木の間隔は、2.3m程度で植え付けます。遮根シートで地面と隔離した盛土に苗木を植え付けるので、かん水装置が必要です。また、主枝を支えるための直管パイプと結果枝を結束するための簡易な棚施設が必要です。



早期成園化技術の実証

●現地実証ほ場の「BKシードレス」では、2年生苗定植2年目の収量が10a換算収量で1,080kgを達成し、早期成園化を実証しました。



現地実証ほ場における2年生苗定植2年目の収量

品種	1果房重 (g)	1樹当たり		10a当たり換算	
		果房数 (房)	収量 (kg)	果房数 (房)	収量 (kg)
BKシードレス	698	21	14.6	1,554	1,080
シャインマスカット	383	9	3.5	666	259

盛土式根圏制御栽培の有利性

●地植えに比べて導入費用が15万円ほど高くなりますが、初収穫を1年、樹形完成を2年早められるため、累積キャッシュフローの黒字化の時期を早めることができます。

ブドウのハウス1棟当たりの経営指標の予測値

栽培法	主要指標	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	10年目
根圏制御	所得(円) (粗収益-経営費)	-5,000	92,000	187,000	285,000	393,000	393,000
	N年目累積 キャッシュフロー	-605,000	-513,000	-326,000	-41,000	352,000	2,317,000
地植え	所得(円) (粗収益-経営費)	-5,000	-7,000	35,000	123,000	177,000	321,000
	N年目累積 キャッシュフロー	-455,000	-462,000	-427,000	-304,000	-127,000	1,406,000

果樹早期復旧コンソーシアム

福島県農業総合センター果樹研究所・栃木県農業試験場・神奈川県農業技術センター

国立大学法人 福島大学・一般社団法人 食品需給研究センター